

東日本大震災の復興にむけた日本地質学会の取り組み

高木秀雄

(社)日本地質学会・社会貢献部会(ジオパーク)担当理事

早稲田大学 教育・総合科学学術院 (hideo@waseda.jp)

要旨

・一般社団法人日本地質学会は、2011年3月の震災後、社会貢献を意識した啓蒙啓発活動、会員から公募した調査研究事業を行うとともに、学術貢献が中心である学会活動として、3回にわたる地質学雑誌特集号の編集と、主に津波堆積物にかかわる国内・国際シンポジウムを開催した。この学術活動は、今後も継続される予定。

・緊急災害時における地球科学界の対応としては、地球惑星科学連合よりも各専門分野をうけもつ学会レベル、さらには個人レベルの方が迅速な対応が可能である。重要なことは、その成果を社会に還元し、その過程で様々な学協会の成果を整理して、連合としても広報することであろう。そのことは、連合の重要な役割である学術会議との連携の上でも重要であると考えられる。